

来て見て触れて、楽しい一日を

カッコーフェスタ 2007

今年、一般の来場者に体を使って体験していただく催し、団体の積極的な発表、そして、現在活動中の団体のメンバーと来場者による懇談を主として行いたいと考えております。昨年よりももっと深く、人々の中に市民活動を生かすべく、体験して、話して、役に立つ、そんなにぎやかな熱気を実現したいという「野望」を持っております。

参加して、触れて、楽しい一日を！

おしゃべりと、体験をしに来てください。
第2回市民活動交流まつり
実行委員会



昨年のカッコーフェスタ <市民活動のお祭り>

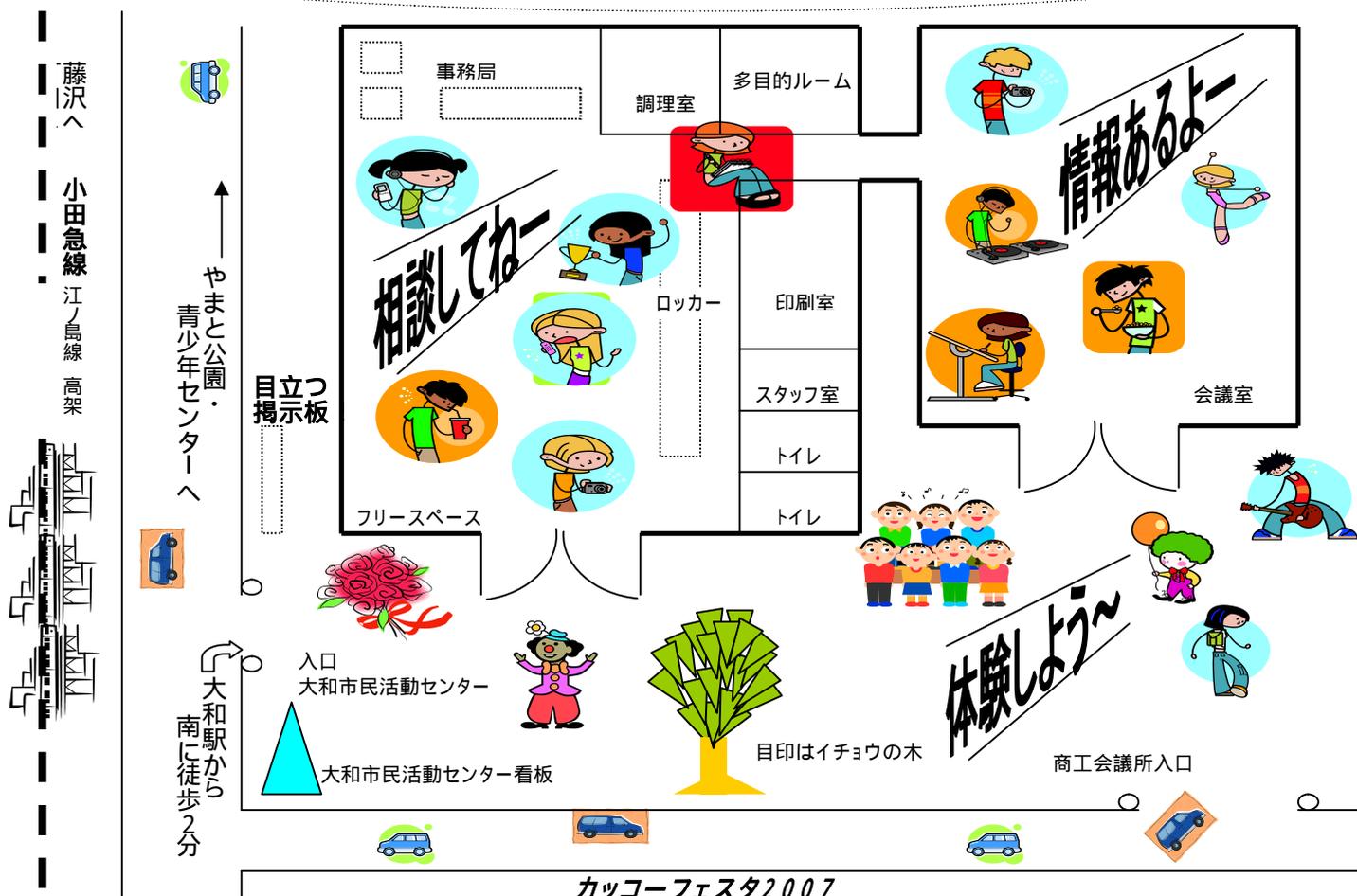
去年11月に実施したカッコーフェスタでは、約30もの団体の皆様、個人の方、引地台中学校の生徒さんほか多くの方々にご参加いただき、盛大なお祭りを開催することができました。

3ヵ月間の準備の期間中、また、2日間開催中、活躍して下さった関係者の数は100名以上となり、寄付などの形で参加して下さった企業や個人の方もありました。

おかげさまで一般来館者は2日間でのべ1000人を越えました。カッコーフェスタの目的は、参加者同士、各団体同士の交流を図ることです。昨年は数団体単位で合同製作する展示と、販売を中心としたイベントでした。

F M やま と 10月26日(金) 14:40 ~ 「Around Town」

で開催のお知らせを生放送しますよー

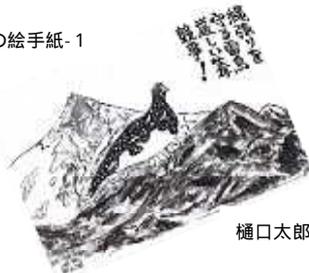


カッコーフェスタ2007

今年のテーマは「ワタシを大事に」です。団体としてだけでなく、「ワタシ」個人としてぜひイベントに参加していただきたいと思っています。参加の形は様々です。体験コーナーを出展する、情報の発信場所として利用する、もちろん当日の来場者として参加していただくことも大歓迎です。「ワタシ」が楽しくなるようなイベントにしたいと思っていますので、ぜひ多くの方々のご参加をお待ちしています。

カッコーフェスタ開催日は 11月3日(土) 4日(日)の2日間です。
くわしくは市民活動センター事務局までお問い合わせください。

秋の絵手紙-1



樋口太郎

(南口)
大和駅



樋口太郎

第2回 8月10日(金)

暑い日だった。
前回の反省をうけて、シートを用意し、車座で話そうという趣向。登録団体からお客さんがきてくれた。
司会をお願いし、それぞれの活動について話を始めてみた。順番で話し終わったところで時間切れ！
会話まで至らず残念！

参加者50名:高校生6名含む

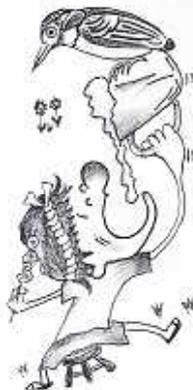
第1回 8月3日(金)

ビール・焼きそば・ヤキトリなどを用意して、仲間を呼び、話ができる会を開催しよう、ご近所の人たちと顔の見える関係を作ろう、という目標でスタートしたキャンドルナイト。はじめてみたら、準備だけでも大変。キャンドルの点火に悪戦苦闘。開始しての様子。テーブルを5つにわけて配置したところ、お客さんがテーブルごとに盛りあがっていて知らない同士のあらたな交流が生まれにくかった。

参加者31名

第4回 8月24日(金)

もっと商店会の方々に来ていただきたい、と、今週は、はじめて商店会へピラを配りに出たけれど、直接の集客にはつながらず。しかし、訪ねて見るとどのお店も、丁寧に話を聞いていただけました。
もっと早くに行くべきだった。広報には課題がのこった。参加者30名



第3回 8月17日(金)

近隣の自治会がのきなみ夏祭りの日。地元自治会へ出るために、センターへ来られない人が多かつたらしく参加者、まばら。なんとか終了。

参加者15名

第5回 8月31日(金) 最終回。

準備の段取りもすっかり慣れたもの！ビールと焼きそばがよく売れた。不安定な天候の中、外で開催できるか不安だったが無事開催し、南京玉すだれ、ハワイアン、ウクレレ、草笛などが実演された。参加者37名

~キャンドル ナイト ラウンジ を終えて~

拠点は、継続して集客のイベントを行うことができる！それがボランティアを主体としてできたことは、大きな進歩でした。全体を通して、販売その他はまったく滞りなく、サポーターの皆様の大変心のこもった働きがありました。ふらっと参加した一般の来館者の方々にも楽しんでいただけたと思います。

もうひとつの
8月



かわいいペンダント作り ふくろう工房

ふくろう工房を主宰する白井康資さんの指導でペンダントづくり。今回の工作教室イベントに5名が参加。白井さんが集めた天然木を輪切りにしたものに絵を描きます。断面が単純な円でないほうが描いていく面白さがあります。参加者はみんな初めての経験。自由に水彩で絵を描き、ラッカー処理し、ペンダントに加工します。自分 made のオリジナル作品が出来上がってみなさん満足の笑顔でした。

事務局: M. T.

折り紙で動物を！ 折り紙サークル

夏休み子ども企画で折り紙の講習をお願いしました。高校生2人を含めた参加者6人がクラフトと折り紙を教えていただき、折りながらの会話も楽しみました。折り紙には数学的要素が組み込まれていることがわかり、基本正四角形が大事だということもわかりました。老人ホーム、留守家庭児童ホームなどで教えているとのこと。今年もカコーフェスタで折り紙文化を体験しましょう！

事務局: I. M.



レシピはおまかせ 食のアトリエ

エプロンをかけるとみんなの顔が「さぁ始まるぞ~」という期待の顔に変わり、まっすぐに視線が注がれました。

「みんなはカレーが好きかな~?」と話始めて、約10分程のエプロンシアターが始まった。実は2日前に教わったばかり。もぎ取りクッキングなど親子のイベントも多い食のアトリエとして新たな試み。今回の夏休み企画では好評だったのでこれからイベントの空き時間に継続していきたいな~と思いました。

記: 食のアトリエ 関水

演劇やまと塾から参加

星野俊江さん どうでしたか？

『演劇やまと塾』のメンバー8名で初めて参加させていただきました。本当に、キャンドルの灯のようなほのぼのとした手づくりのイベントで・・・思わず私たちも何かもありあげなくっちゃ！と飛び入りで「あめ売り」の物売り口上を披露してしまいましたが、ブルーシートに車座というお花見スタイルのミーティング？は多くの皆さんの市民活動を身近に感じ取ることができ又自分達の演劇活動も知っていただく事ができる、とてもよい機会でした。

来年は劇団員全員で参加します。

演劇やまと塾 星野俊江

夜のムード演出

ハワイアン の

高草木(たかくさき)弘史さん

私とハワイアンの出会いは銀座の音楽喫茶(タクト)で歌手日野てる子と出会った時に始まります。スチールギター、ウクレレ、ベースなどによるハワイアンは夏の夜を演出するのに最も合っているように思う。この夏大和市民活動センターのキャンドルナイトラウンジで演奏させてもらったが参加者も喜んで下さったようでとても良い思い出となりました。



ボランティア参加 バスケットの高校生さん どうでした？

普通の人がもう少し参加してくれるともっと楽しかったと思う。キャンドルが消えないように、工夫してほしかったなー。

高校生ボランティア参加の R.ちゃん どうでしたか？

おじさん達が、「近頃の子は・・・」と若い人に対しての気持ちを話してくれたので、自分を見つめる良い機会だった。今までの人生経験を聞けたことも楽しかったことのひとつでした

こんなうまい

焼きそば 久しぶり！

この一言で・・・

5回全部“はりきり”ました！

予行練習を含め6回にわたって「焼きそば、ヤキトリ」を作ってくださいました伊東芳郎さん どうでしたか？

市民活動センター主催のイベントでどの程度まで商売をしてよいのか、自問自答しながらやった。無事に終わればよいと思っていた。もっと一般の人に参加してもらえればよかった。語り合うこともよいが、楽しくやれることが第一。夏の夜の思い出が作れればよいと頑張りました！

Candle Night Lounge
聞かせてください。

参加してどうでした？



南京玉すだれ ジャグリング バルーンアート 出し惜しみなし！

クラウン<道化師>のラッキーさんってどんな人？

8年くらい前からボランティアをはじめました。老人ホームや、幼稚園、子ども会にも行っていますよ。南京玉すだれのほか、ジャグリングだとか、バルーンアートなどもやります。芸の内容は、お客さんにあわせて、広く浅くですね。

ですので、時々クラウンの格好をしている時、失敗したりすると子どもたちがガンバッと応援してくれます(笑)。南京玉すだれや、様々な口上は、江戸時代の客寄せです。年配のお客さん向けだと思われがちですが、実は外国人の人や子どもたちにも受けるんですよ。

日本の伝統芸能ですので、受けついでいきたいですね。

もうひとつの
8月

～活動団体PRパネル～

8月中 登録団体による活動紹介のための展示がフリースペースで行われました。展示数、5団体と参加が少なく残念ではありましたが、それぞれの団体の個性がキラリと光るものでした。このままお蔵入りしてはもったいないのでカッコーフェスタに出展してもらえよう交渉中です。



←ワン・ピース としき君(小5)がかきました。

初めて「センター」に来た子どもたち ワン・ピース

8月6日・8日・22日

30度を越す猛暑の中、「ワン・ピース」からセンターへ向かって歩きながら思い思いの会話で子どもたちとの交流を図りました。「年いくつ」「カキ氷おいしい」そんな話をしながら、汗だくになり着いた瞬間「いらっしゃい！」「お疲れさま」と労いの言葉で迎えました。冷たいカキ氷を皆で食べながら、自己紹介をしました。絵を描いた後は公園でかけっこやブランコに興じボランティアさんに作ってもらった草笛を吹きながらワン・ピースに帰宅されました。ボランティアさん達から「子どもたちとの交流会で童心に帰りました。」との声も聞かれました。楽しみながらも、目配りを忘れずに子どもの行動範囲を把握していただいた事や子どもたちが安心して遊べる環境作り心砕いて頂いた事に感謝いたします。今回の交流会はボランティアさん無くしては成り立たない企画でした。

事務局 S.I.

楽しいひとときを

ありがとうございました

サポートハウスワン・ピース理事長 滝本美知留

「今日は市民活動センターに行ってきたかき氷を食べます」と伝えると、言葉の意味が分かる子は「かき氷！」「やったー！」と大喜び、言葉がわからない子も何か楽しい雰囲気を感じていました。猛暑の中、お迎えに来てくれたボランティアさんとしっかり手をつないで活動センターまで歩きました。初めて会う大人の人に囲まれて緊張気味だった子どもたちも、かき氷をいただくうちに満足そうな表情になりました。大きな模造紙に絵を描いたり、せんべいに絵を描いたり、綿菓子を作らせてもらったり、ワン・ピースではとてもできない楽しい体験をさせてもらいました。絵を描いたことがなかった子が絵を描いたり、ビスケットしか食べなかった子がせんべいをおかわりしたり、近くには行けないけど遠くから大道芸をじっと見ている子がいたり、私たちスタッフも子どもたちの新しい面を見ることができました。また、保護者の方々も子どもたちが楽しく過ごす新しい場所ができたことを喜んでくれました。

お忙しい中、ワン・ピースの子どもたちのために企画を考え準備を進めてくださった活動センターの皆様感謝しています。ありがとうございました。

特定非営利活動法人サポートハウス ワン・ピース

ワン・ピース(日中一時支援)は2004年4月にオープンし、現在4年目です。一つでもピースが欠けてはパズルは完成しません。私たちの社会も、ひとりひとりがかけがえのない大切な存在です。個性豊かな子どもたちに、もっと豊かな時間を・・・との思いをこめて、知的障害児の放課後の居場所として3年前にオープンしました。現在では、ワン・ピース、ワン・ピース、ワン・ピースと3カ所で70人の子どもたちが利用しています。

仲間が広がらない 資金が足りない 活動が伝わらない そんな な い を解決する

～連続～ 共育マネージメントセミナー もう5回

第1回 2月7日(水)19:00～21:00

テーマ 「仲間づくり・資金づくり」

ゲスト

永井圭子さん(NPO 法人ワーカーズ・コレクティブチャイルドケア)

森 英志さん(NPO 法人大和腎友会)

館合みちこさん(NPO 法人 地域家族しんちゃんハウス)

それぞれの活動の現場で体験された貴重な体験談や苦労話など、参加者にとって大変参考になるお話が多く、一同深い感銘を受けました。場所をフリースペースに移してくつろいだ雰囲気の中での質疑応答では、テーマにこだわらない幅広い質問も飛び出し、ゲストのみなさまからそれぞれ丁寧にお答えいただきました。予定の2時間をオーバーしての熱心な受け答えが続きました。

第4回 7月20日(火)18:30～20:00

テーマ 「NPOと法人制度」

ゲスト 椎野修平さん

(県央地域県政総合センター商工労働部長)

大和市の現状をよく承知され、データに裏打ちされたお話は示唆に富むものでした。NPOの定義を色々な角度から絞り込み、分かり易く図にまとめて示され、理解を深めることができました。NPO 法人設立手続きについても平易に解説されて必要なら誰でも簡単に申請できる点を強調され、これから設立しようとする人にとって勇気づけられるお話でした。「公益は誰が決めるのか？」民法34条(国)が決める等のお話は興味深いものでした。

第2回 3月14日(水)13:30～15:30

テーマ 「団体の会計処理」

ゲスト 首藤雅代さん (NPO 法人 ワーカーズ・コレクティブケアびーくる)

ゲストの首藤さんは会計の専門家ではないと謙遜されていましたが、必要に迫られて数年間独学で身につけられた知識と仰っていました。首藤さんご自身の所属団体の決算書を教材とされてのお話は、説得力のあるものでした。「会計管理は団体の活動管理そのものであるとの認識が必要であること」「会計手法については、月次でまとめていくのが基本」「収支決算は現金主義が大切」など、すぐに取り入れたい考え方でしよう。質疑応答では参加者からの質問が相次ぎました。

第5回 9月25日(火)18:40～20:40

テーマ

「助成金・補助金の「申請書」の書き方」

ゲスト 小山紳一郎さん

(かながわ国際交流財団 情報サービス課長)

助成金・補助金の種類から、申請のノウハウ、助成先の探し方、助成団体の活用の仕方まで、パワーポイントを使って分かりやすく解説された。

申請の7か条をチェックすること、事業の質と表現方法のコツが成否を分けることのお話は説得力がありました。

第3回 5月24日(木)18:00～20:00

テーマ 「活動が伝わらない」を考える。 題して“泣く紙、笑う紙”

～どうしたら効果的なリーフレットができるか～

ゲスト 小杉皓男さん (現、本作り屋 協働の拠点運営委員会副会長)

豊富な資料を駆使した分かりやすく丁寧なお話でした。リーフレットはA4の1枚に必要な情報を全て盛り込むことが重要であること、1枚の紙にまとめる場合は上を重くし(絵や写真など)、下の部分に文字を入れて軽くするのがコツとのことです。「広報やまと」を題材にしての表現法・写真・イラストなどの評論では新しい見方を知ることができました。作品制作実習では素人でもその気になればよい作品をつくることのできる自信を持つことができました。



おいでおいで。
課題をいっしょに
解決する
セミナーだよ。

次の共育セミナー 第6回は
11月27日(火)です。
18:30～
人が集まらないイベントを

集まるイベントに

するには・・・

ほっとかれへん！が自発性の正体 “我慢できない”から始まる活動

市民とNPO / 市民活動・NPOの社会的な意義

平成7年(1995年)阪神・淡路大震災のボランティア経験に基づいた講演から。公設市民活動支援施設人材育成事業～研修 基礎コース～

8月28日(火)

講師：早瀬 昇さん(大阪ボランティア協会理事・事務局長)

<大きな災害ほど最初は全体が見えない。

「公平原理」が逆作用する“非常時”>

震災のときは、すぐに物資が届くはずもなく、阪神・淡路大震災でも実際に3日目(19日)までおにぎりが届かず、何も食べることができなかった人がいる。それが現実だ。

役所は、被害状況の全体をすべて把握できるまでは、援助の優先順位がつけられないため、公平にしようとするほど動けなくなる。

役所が緊急時に機動的ではないのは、怠慢ということではなく、「全体の奉仕者」としてのありかたによる。ところが、大きな災害ほど、被害の全体像が見えにくいのだ。アメリカ危機管理局(FEMA)のパフレットには災害直後3日間は公の救助が届かないことをしらせている。

それに対し、ボランティアは個人の自発的な活動である。自発的な活動ということは機動的に動けるということでもある。被害の全体の様子をすべて

知ることができなくても、ボランティアは個人の意思だけで援助に向かうことができるのだ。

<公共ニーズの個性化をかなえる。共感する相手に、思いをこめて関わられるからこそ生まれる“暖かさ”>

いま、公共ニーズは国際化・個性化している。その原因のひとつに高齢化がある。個性化したニーズのもっともわかりやすい例が「ホスピス」だろう。その利用者の大部分を占める「老人」は誰もが1冊の本が書けるくらい様々な経験をかさね、長い人生を送っているひとたちである。そこでは、それぞれの「私」にあった、個性的な対応が求められることになる。震災時、多くの人がボランティアとして現地に入ったが、ボランティアとして行った「私」の中にはいろいろな「私」がいる。多彩な人がいる、というのは、多様なニーズに答えられることともいえる。それはきわめて重要なポイントだ。

<ボランティアの矛盾>

介護にかかわるボランティアなどの場合、ケアされる人の体やこころのしんどさが理解できる人ほど、無理な働き方をして、疲れてしまいがちである。だが本来、介護される人の人権として保障すべき、その生活環境の快適さや安全を、ボランティアや家族だけの愛情によって実現しようとするべきではないのだ。 記：山田裕子

パルスには「豆のなる木」という意味があります

おしゃべり ラウンジ パルス

市民活動センターに来ると、「楽しい日」と「もの足りない日」があるのに気づきます。印刷機を借りようと思ってくるときでも、やっぱり誰かとお話ができたほうが「楽しい日」になります。楽しい日が続くと、ふらっと立ち寄りた場所になる。

そんな「おしゃべりから楽しい日を作る」という目的のために今年の5月から月一回開催しているのが「おしゃべりラウンジパルス」です。「パルス」という言葉には「鼓動」という意味の他に「豆のなる木」という意味があります。「パルス」の参加者が活発に交流することで何かの「豆」を生み出そうという願いをこめました。

さて、実際のパルスでは何をしているかということをお話したいと思います。参加は簡単です。開催日に直接市民活動センターに足を運んでいただくだけです。家を出るのが億劫になる土曜日の午前中に開催していますが、玄関で靴を履く勇氣さえ持っていれば楽しい時間をすごしていただけたと思います。部屋の中で10人ほどの人が顔を合わせておしゃべりをします。そのうちに、「こんなときどうしてる?」「こんな活動しているよ」などの情報交換が始まります。

それでは過去の様子を振り返ってみましょう。



第1回のパルスでは「PRタイム」ということで参加者それぞれが関わっている団体や活動について紹介していただきました。なぜだかお酒の話が一番盛り上がりましたが、終始なごやかな雰囲気でもパルスのスタートを切ることができました。

第2回は「お悩み解決」をテーマに活動の広報の仕方などみなさんと意見を交わすことができました。早速、パルスでのアドバイスを参考に市民活動センターでのイベントを成功させられた方もいました。そのイベントについての振り返りも含めてさらに意見を出し合ったのが、

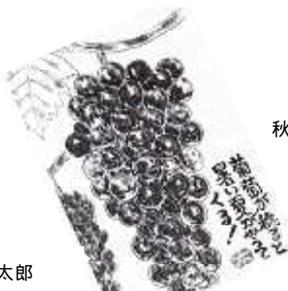
第3回パルスです。おしゃべりから始まる活動で具体的なイベントに結びつくことはまさに「豆」作りの醍醐味です。

第4回は9月22日に行われたばかりですが、「出会い」がテーマになりました。「セイウチの肌触りの話」「ヤマトは大きな太陽という意味なんだ、という話」「ハトを助けた話」などなど様々な出会いの話があるんな接点で結びついてとても有意義な時間になりました。参加者のみなさまもしきりにメモを取られてお互いの話に耳を傾けていたのが印象的でした。

ゴールを決めた話し合いではなく、それぞれが自由に意見を交し合う「おしゃべりラウンジパルス」ですが、まだ始まったばかりでヨチヨチ歩きの状態です。ペットショップでは子犬の方が人気があるといわれますが、まさに子犬の「パルス」をみなさまのあたたかい交流を通じて育てていただけたらうれしく思います。

ぜひ一度、週末のお散歩と思って足をお運びいただくと幸いです。なお、平日開催などをご希望の方はお気軽に市民活動センターへお問い合わせください。

次回は10月26日(金) 18:30 ~ です。



秋の絵手紙-3

樋口太郎

大和市民活動センター近くの

「アジアの台所」 Makan Makanに

行ってきました。～おいしく食べて国際交流～

大和市には多くの外国籍の方が暮らしています。本場の味を楽しみつつ、お国の文化に思いを馳せる。そんな国際交流をご近所であじわいました。シンガポール料理「マカンマカン」のおススメは海南鶏飯(チキンライス)。中国、海南島出身者が伝えた料理。庶民の定番の定食です。

調理のシンガポリアン ジェームスさん。「チキンライスはシンガポールのおじさんのレシピを元に作った。でも、マカンマカンは本場のものよりもずっと美味しい。」マカンはマレー語の「食べる」。ご馳走様でした。

さて、次回はペルー料理にでも行ってみますか...
記・山田裕子



汗と涙の共同作業！

わかりやすい 看板と掲示板 ができた！

バリバリ蛍光色オレンジの「看板」。

「大和市民活動センター」と書いてある。

それと、タミ1畳ぶんほどもある「掲示板」。

サポーターと、事務局スタッフと、市役所の人と、運営委員で 材料の買出しから組み立て、土木工事まで よってたかって作った、まさに「協働」のたまもの。

市民活動課 Yさん 「暑かった～、本当に暑い！」
事務局 Mさん 「皆で力を合わせればできちゃうね。」
サポーター Kさん 「台風にめげなくて安心しました。」
運営委員 Yさん 「楽しかった！ふ～！」

大和市民活動センター10・11・12月予定

< 10がつ >

10日(水)カッキーフェスタ2007参加団体申込み締め切り日
17日(水)協働の拠点運営会議 18:30～ 会議室
26日(金)FMやまと:カッキーフェスタ2007放送 14:40～
26日(金)おしゃべりラウンジパルス 18:30～ 会議室

< 11がつ >

3日(土)4日(日)カッキーフェスタ2007 10:00～16:00
21日(水)協働の拠点運営会議 18:30～ 会議室
27日(火)第6回共育セミナー 18:30～

< 12がつ >

19日(水)協働の拠点運営会議 18:30～ 会議室
29日(土)から1月3日(木)まで 年末年始休館

大和市民活動センター “ある日ある時”

8月14日(火)晴れ

弥栄西高校の女子高校生2人が「消費者の視点」についての課題宿題をもって来館されました。そこから更に環境、ボランティア活動のことなど幅広く意見を述べ合いました。カッコーフェスタなど お友達も誘って気楽に寄ってくれるように話したところ「是非また来ます」と言って帰りました。爽やかな高校生2人の風でスタッフ一同フレッシュな気分になりました。

8月18日(土)くもり

サポーターのMさんが「いいことしたよ！」とニコニコして入ってきました。1枚の犬の画を出して説明してくれました。今朝起きて新聞を取りに玄関を開けようとしたらどうも重い。ドンと押したらとても大きな犬が牙をむいていたそうです。でも自治会集會に出かけなくてはならず犬をそのままに家を出ました。會議の終わりに漫画を見せたら子供會の人が「それ、隣の地区のXXさんの犬に似ているわ！」の一言で無事解決。まだ嬉しいことがあったそうです。その後ある人が「あんた、會議中に描いたのかい？その紙、自治防災の在庫表じゃない！」と言って皆が手を叩いて笑ったとのこと。明るい集會の雰囲気を楽しめたそうです。で、その画はいつもの様に頂きました！(^^) もうイラストが何百と集まりました。捨てるのはもったいない！事務局「イラストファイル」に1ページ追加です。



8月28日(火)晴れ

「演劇やまと塾」の方がいらして市民活動センターで紹介した「明日へつづく道」を上演することになり、原作者の手塚さんにお会いしたいので、調整してほしいとの依頼がありました。早速調整しました。絵本の原作者も演出家も劇団員も大和在住の方ですべて担って行く事はすばらしいと思いきわくします。



秋の絵手紙-4



樋口太郎

センターは
求めています。

1. 人ひと 声プロジェクト・サポーター募集します。

好奇心に自信をお持ちの方なら、どなたでも。一緒に取材に行き 一緒に原稿をまとめましょう。是非、センターへご連絡ください。

(P3下段右に関連記事あり)



2. 物もの 自転車 あったら いいなー！

自転車があったら市役所本庁、生涯学習センター、ボランティアセンター、まごころセンター、老人施設、障害児者作業所などなどに情報収集や市民活動センター発のイベント案内、研修やセミナーの勧誘などの活動がもっと気軽にできるのに、今は電車と歩きなので、ついつい外出が億劫になっています。何処かで眠っている自転車があったら、寄付してください。

イベントが多かった～！サポーターの方々の頑張りには感謝です。試行錯誤の連続でしたがみんなの意見をきちんと生かすことができたでしょうか。8月の企画は息切れしながらも、とにかく欲張って実施しました。様々な批判を栄養にしていきたいです。

(山田裕子)

面白い記事、書きたい？ そんなら、取材に行かなくちゃ。__はい！行ってきま～す。
(木之下 純)

前号までの4頁から8頁に今号は拡大し、掲載テーマも決まり、ラフイメージを勉強のため考えてみたが難しい。テーマの内容が見えない。イメージが堅くて面白みがない。読んでもらう、乗ってもらうには…まだまだ。
(浅見正明)

こんなに大勢の“編集長”がいて賑やかです。タイトルは「あの口この口」にしようか…そんな中 時々ハッと 思う案が浮かぶから楽しい。
(望月則男)

気付けば今年も残りあと3ヵ月… 時が経つのはなんと早いのでしょうか。桜や銀杏、柿の木に囲まれ、夏には朝顔の咲くセンターは 特に季節の移ろいが早く感じられるのかもしれない。

(中山みゆき)



文章はずっと残るコミュニケーションです。やはり一番気になるのは読者の顔。しかめっ面をしていると、顔にしがが残るのでご注意ください。

(鈴木幸輔)

「センター」発企画。土曜日のパルス、8月の毎金曜日 夜の「Candle Night Lounge」は5回やりとげた。隔月の「連続共育マネージメントセミナー」は5回を終えた。気づいてみると、去年度に比べて、俄然多いイベントをこなしているのではないか。このアクセルの踏み込みにふさわしく、「あの手この手」も隔月発行になってきた。この勢いなら 近い将来は月1(ツキイチ)発行になりそうだ。

(小杉皓男)

8月9月は何だか気忙しく 色々な人との会話や交わりがスムーズではありませんでした。悩みや愚痴が多くなる日常のなかで 何気なく助言を与えてくれるMさん。つい笑みがこぼれそうな話を見つけてくれるさん。暖かい言葉で励ましてくれるSさん達。みんな！ワタシの感情の特効薬です。Mさんは感情安定剤、さんは感情の清涼剤、Sさん達は感情の一服薬。皆に支えられて明日もがんばります。

(桜井貞代)